



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：イラク問題に関する米国との協議 (5月17日付現地報道)

1. 5月17日、OIC外相会合に出席のためにパキスタンを訪問中のモッタキ・イラン外相は、イラク問題に関するイランと米国による大使級協議が5月28日にイラクで開催されると語った。
2. モッタキ外相の発言：
 - (1) 同協議ではイラクの治安問題に関してのみ協議される。協議は米国の強情さによって延期されていたが、我々は協議の用意があることを再度発表した。今回の協議では、イランの核問題に関しては話し合われない。イラクにいかん治安を確立するか、そのための諸方策について話し合われる。2006年3月にイラク指導者の要請を受けて、我々は米国と協議することを受け入れたが、米国側の宣伝工作により、我々はこの対話をキャンセルした。今年になり、米国は再度正式交渉の要請を行い、我々はこれを受け入れた。この協議はイラク政府高官の出席の下で行われる。イラン側の代表は経験豊かな外交官の一人であり、大使級となる。
 - (2) イランと米国の関係は非常に険悪 (black) であり、米国が敵対的行動を止めるには多くの時間が必要である。イラクにおける米国の政策は失敗している。イラクに外国軍が駐留することにより、イラク国民は深刻な被害を受けている。占領者の間違った政策の結果、イラクは宗教的・民族的問題を抱えている。イラクにおける占領軍の駐留はイスラム教徒を分裂させようとする陰謀である。